キマグレ 第542号 彦根東高校新聞 平成22年（2010年）11月11日（木）

新聞部初の水中撮影に成功しました

命の輝きに出会う
～小浜島シュノーケリング・ダイビングコース～

修学旅行取材日記 13

小浜島シュノーケリング・ダイビングコースの1・2・6・8組の生徒は7時30分、ホテルを出発し『ちゅらさん２』号に小浜島へ乗船した。２班に分かれて午前と午後を入れ替えてマリン体験とサターアンダギー作りに取り組む。また、ダイビングコースは空き時間にシュノーケリングも行った。

小浜島の珊瑚礁は世界的に有名なオーストラリアのグレートバリアリーフに生息するものよりも種類が多く、透明であるのが有名だ。日本で一番大きい珊瑚礁である。

小浜島からさらに沖へ10分。これまで沖縄で見てきたどの海よりも鮮やかな青いグラデーションがかかった海でインストラクターによる装着器具と呼吸法の練習が始まる。「寒いって言うなよ」と言われて「熱いっ」と体を震わせながら海に入る。どれも初めてつける器具ばかりだ。つけ慣れないマスク吸に最初こそすぐに水面に顔をだしたりしたが、全員がシュノーケリング出来る状態になったところで、いよいよ足がつかない水深３メートルのポイントにダイビングコースの生徒は移動した。

シュノーケリングとダイビングの決定的な違いは耳抜きと酸素ボンベを担ぐことだ。一番難しい関門はロープを使って海底まで降りること。耳抜きが出来なかったり呼吸を意識し過ぎたり、あるいはマスクに水が入ったりして、今まさに大自然の中に飛び込もうとしていること、そして海への異怖を感じた。陸とは全く違う環境の違いは私たちをただただ圧倒する。

海中ではインストラクターのお絵かきボードにかかれる生き物の説明に目を向けながらゆったりと海底を遊泳。カクレクマノミや色とりどりの珊瑚を目の前で見て、ナマコに触って、白砂に膝をついて五感で『生』を感じた。インストラクターのうちの１人は「年々減ってきている珊瑚の現状も知ってほしい。身近な自然を大切にし、守ってほしい」と話された。

多くの命を育む沖縄の海。そこはまさに、命の宝庫に満ちあふれた場所だった。（逢）

彦根東高校新聞

速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

水に親しむもう一つのコース 西表・仲間川でカヌー

修学旅行二日目と三日目にはそれぞれ学年の前半と後半に分かれてのコース別体験学習が行われ、仲間川カヌーコースは西表島の仲間川で行われた。

このコースの特徴は、本土では見ることのできないマングローブ林を両岸に見ながらカヌーの実習をすることができることだ。マングローブとは熱帯地方によく見られる水辺に生える植物の総称で、、タコの足のような根が特徴的である。またカヌーは二人乗りとなっているため、効率よくカヌーを操縦するためには二人のチームワークが問われるそうだ。

生徒たちはまず陸上でカヌーの基本的な操作方法を学び、コーチたちから注意事項を聞いたあと仲間川でのカヌー体験を楽しんだ。ある男子生徒は「普段使わない筋肉をたくさん使ったのでとても疲れた。明日は筋肉痛になるかもしれない。でもなかなか体験することのできないことができたのでとても楽しかった」と笑顔で話してくれた。